

あおぞら



NPO 法人 あいかわ工房
広報 VOL.38 2017.01.01
編集 あいかわ工房編集委員会
発行責任者 熊谷直丈
ホームページ あいかわ工房 [検索](#)
TEL 046-281-1157

謹賀新年

平成 29 年元旦

真鶴半島 三ツ石の日の出

明けまして

おめでどういします

今年も皆様にとって良い年で

ありますよう心より

お祈り申し上げます



利用者の皆さんが毎日元気に、目標を持って通所して頂き、お仕事を供給して下さる企業の皆様、関係機関の皆様の皆様のご支援のもと、あいかわ工房は十年の節目の年を無事に過ごすことが出来ました。

昨年は大きな衝撃的な事件がありました。が、あいかわ工房では、『安全』を第一に考えて、少し面倒でも、『安心』できる方法で運営をして参りたいと思っています。

申年から酉年へのバトンタッチ、悪いことはすべてサル 良いことをトリ 入れて今年が良い年になるように職員一同職務に邁進して参りますので、皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 あいかわ工房

所長 熊谷直丈

年頭のご挨拶

理事長 瀧 亀久男

明けまして

おめでどうございませう

年頭にあたり皆様のご健勝とご多幸を心から
ご祈念申し上げます。

昨年を振り返ると国の内外を問わず色々なことが報道されましたが、今でも鮮明に思い出され、これからも永遠に忘れることのない出来事は、7月26日未明に発生した県立津久井やまゆり園の殺傷事件です。発生から5ヶ月が経過した今でも、関連報道は引き続き、地元新聞が取り上げております。

神奈川県では10月14日『ともに生きる社会かながわ憲章』を制定し

この悲しみを力に

ともに生きる社会を実現します

と宣言しました。私たちあいかわ工房では、出来ることは自分達で速やかに、を合言葉に色々な対策を実施しています。これらの事を実りあるものにするには通所者・職員が情報を共有して連携、協力することが大切です。

今年も酉年です、明るく元気な年となるようお互いに健康に留意して有意義な一年となるよう努めてまいります。

『ともに生きる社会かながわ憲章』

- 一 私たちは、あたたかい心をもって、
すべての人のいのちを大切にします
- 一 私たちは、誰もがその人らしく
暮らすことのできる地域社会を実現します
- 一 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁
いかなる偏見や差別も排除します
- 一 私たちは、この憲章の実現に向けて
県民総ぐるみで取り組みます

利用者さんの声

あいかわ工房に通所して

青井 功

一昨年の12月から通所を始め、一年が経過しました。最初は週に一日でしたが、作業をしてみると現役の頃を思い出して、何とか沢山仕事をしようという気持ちが出てきました。利用日数をもう一日増やして貰い、現在は水木を通っています。

一日の出来高を計量して数字が出るのが楽しみで頑張っていますが、頑張りすぎて手首が痛くなり、職員の方に『そんなに無理をしちゃだめですよ』と言われたりしています。

でも、毎月の工賃を戴く時は『ありがたいでございます』と受け取ります。とても嬉しいのです、このお金は自分で自由に使えるので自立した気持ちになれます。

片麻痺の体で働けるとは思ってもいなかったので、ここで働くことになり、生活に張りが出て来ました。CD解体担当で単純作業と思っていたのですがCDの一つひとつの形状が違い、工夫しないと出来ないのです、集中力が高まって来ました。

また、あいかわ工房で働く仲間もできました。みんな私より若いので元気をもらっています。これからも元気で楽しみながら続けて行きたいと思っています。



安全は全てに優先



昨年末には恒例の一年を表す漢字に『金』が選ばれました。オリンピックでの金メダルなどが取り上げられたのでしよう。

福祉に携わる者にとっては『悔』ではなかったでしょうか。今でも悔しさ、無念さで心が苦しくなります。

築地から豊洲への市場移転の混乱、オリンピックの競技場所での混乱、こんな時新しい都知事が都民ファースト・アスリートファーストと云われてから、〇〇ファーストと使われる方が多く見受けられます。

工場の設備や建築現場の最前線で監理をしていた私にとっては、セーフティファーストが本当のファーストだと思っています。

これは工場や建築現場だからではなく、全てに優先することであり、どの社会に於いても、一人ひとりの日常に於いても最優先のことだと思います。

事故は必ず起こるものであって、起こさないためには事前に危険を察知する、予見する、つまり、危険予知のトレーニングが必要です。

障がいを持たれた方が通所されている、我々の職場でも危険が一杯です。

下肢に障がいのある方や視力に障がいのある方が、立っている、歩いている所に、他の障がいのある方が、不意に走り出してぶつかれば、結果は明らかかな事。また作業に使う工具にも先端が尖っているもの、薄いヘラ状のものなど使用方法を間違えれば、自分の手を傷つけてしまう工具もあります。

作業と障がいのある方の特性を合わせて考えて毎日の受注に対する工程を組まなければなりません。特にこだわりの強い方が多く、隣り合わせの方同士の相性、向かい合わせの方同士の相性も難しいファクターになって来ます。

それらを踏まえて、職員は毎日真剣に話し合いを持って業務をこなしています。毎月のケース会議でのやり取り、毎年の泊まり込みでの研修などにより、危険を予知する能力を高めています。職員一人ひとりの能力が直ぐに利用者さんの態度や、言葉などに敏感に跳ね返る微妙な職場でもあります。

これからも、『セーフティファースト』『安全第一』であり続けて、今年こそは『嬉』の字で締めくくることが出来るように、職員が力を合わせて頑張っていきたいと思えます。

所長 熊谷直丈



侵入犯への対応訓練
厚木警察から講習に
来ていただきました



職員になつて2年

中屋洋平

昨年末で2年を過ぎました。最初は障がいの当事者、利用者として通所しながら、県の職業訓練センターなどを利用して就職先を探していました。所長からの紹介でお試し就職もして見ましたが、自分にマッチしませんでした。そこでハローワークに登録して就職先を探していたところ、あいかわ工房で職員募集していることが判り、所長に話したところ、両親にも会って頂いたり、職員会議でも話し合つて頂いて就職することが出来ました。

最初は利用者から立場が逆転するので、他の利用者さんがどんなふうに感じるのか気になりましたが、皆さんが徐々に理解して下さり、職員の皆さんが優しくフォローしてくれるので、とても働きやすい環境だと思つています。

自分自身、精神の波が時々ありますが、予兆を感じることが出来るようになって、職員の皆さんにもお話をしてくれるので、出来るようになってきました。

色々な障がいの方と接して貴重な体験の毎日、今年も頑張つて行きたいと思つています。

頑張られた2年

課長 武藤育子

中屋さんが利用者として来られた時は緊張をされるので、負担の無いように、頑張ろうという言葉は禁句にして、職員同士でフォローして行くことにしました。

作業に入ったら、何でも器用に熟すし、人当たりもソフトでは是非良い所に就職して頂きたいと思つていました。

そのままではいけないので、少しずつ、職員の補助をして頂くようにしながら社会適応を考えました。それもそつなく熟されて、ハローワークへの登録など進んだところで、当所への就職となりました。

無理をしない様に通常の業務は全員がパソコンのネットワークで仕事の内容を共有しながら仕事をしています。車好きで、送迎車の整備のアドバイスをして貰ったり、メンバーの中で中屋さんはなくてはならない存在になっています。これからも一緒に無理をせずに進みましょう。



出産から復帰しました

古座野 幸恵

一昨年の7月から出産の為に長期のお休みをいただいておりますが、昨年5月から生活支援員として復帰いたしました。復帰当初は子どもが体調を崩し、急遽休みを頂いたり、早退をしたりとご迷惑を掛ける事が多々ありました。

また仕事も以前と変更になった部分があり、毎日先輩や同僚に助けて頂きながら仕事と家庭の両立を目指してやってきました。そして仕事と育児に役立てばと思ひ、食生活アドバイザー3級の取得に向け、休憩時間や家事・育児の合間に少しずつ勉強をし、無事合格することが出来ました。

まだ短時間勤務で、様々な場面において配慮していただきながらの復帰ですが少しでも皆様のお役に立てるよう、これからも頑張つていきますので、どうぞ宜しくお願い致します。



素敵なママになりました

係長 小林 千寿子

古座野さんが入社して、とても明るい雰囲気になり、そして晴れやかな結婚式、可愛らしい女兒を出産されて、しばらくのブランクがありました。その間は職員が結束して仕事をこなしました。

新米ママですが、保育士の経験もあり、また去年の職員研修では共通課題の他に自分が1年間で『目指せる目標を立てる』という課題も出され古座野さんは仕事・家庭にも活かせるようにと食生活アドバイザーの資格取得を目標にしっかりと勉強をして見事に合格しました。

育児・仕事・家事をこなしながらの勉強、仕事にも勤務時間が短い分をきちんと整理しての責任感もあり、何よりも明るい性格で利用者さんに接して貰っています。

これからお子さんの成長につれて、まだまだ色々なことがあります。みんなでサポート出来る職場にしたいと思つているので、一緒に頑張つて行きましよう。



秋の 屋外研修で くりはま花の国 へ行きました



久里浜港を見下ろせるレストランでの昼食でした



11月1日 防災センターで体験学習をしました 作業場ではシェイクアウトの訓練をしました



震度7を体験しました
何もできません!!



スクリーンの発火場所への放水 火の根元を狙うのだけど、なかなかうまく行きませんでした



ヘルメットの顎紐が掛けにくいので、ゴム入りに順次替えています

海外での指導者の交代や不祥事、国益優先のための摩擦など今年は大きな変化が生じるような予感がします。
愛川町障がい者協議会が充足して3年目になります。会長として力不足ではありますが、事務局・サポートチームの頑張りで、障がいがあってもなくても、ともに理解しあって暮らせる町づくりを進めています。
今年はみんなの力で良い年になることを願っています。 熊谷

編集後記



災害が発生したときには、あいかわ工房の広域避難場所は愛川高校です。でも、高校へは急な坂道があり、土砂災害の危険指定になっています。そこで私たちは工房内に籠城するのが最善策と考えて、仮設テントやトイレ、室内でのプライバシー保護のためのテント、非常食、各種防災用品などを整備しています。
昨年末には利用者さん・職員全員にIDカードの入られる呼び笛を配り、常に身に付けて貰っています。